とかち新聞
主筆 松山明
北海道足寄町　とかち新聞社　〒2551
毎旬5の日発行　1カ月300円
1カ年前納の場合に限り3,000円

# 開発促進期成会の解散を決定

## 足寄　これはどうして？

足寄町開発促進期成会（会長・小林町長）では四月三十日に町役場会議室で臨時総会をひらいて解散を決定しました。

過疎化くいとめのために立地条件を生かしてこれも消極的な現象ではないかと奇異の感じをあたえていますが！

役のおりから、これはあまりにも消極的で大いに開発をすすめ、企業誘致から鉄道新線に大型プロジェクトなど県案山

## 大いにハッスルしたが

この期成会は、四十六年の夏に本別保健所の改築を前に足寄町へ道から適地あっせんの依頼があったことから、俄然町をあげてハッスルして「広域行政機関誘致促進期成会」としてスタート、その後四十七年には「十勝、阿寒のいずれかに学園都市を…」との田中構想がぶちあげられてからはいよいよハリキッて「開発促進期成会」に格上げするとともに学園都市、国鉄新線、高速道路、小坂山観光開発などの大型開発から企業誘致にそのときどきの課題にとりくんできたものです。

会の構成は、議会の正副議長、常任委員長から商工農業、経済、青年、婦人団体の長など三十名ですが、この日は午後一時開会のところ出席がわるく一時間もおくれて半数が顔をみせてようやく開会、小林会長は開会あいさつのなかで『この会は諮問機関ではなく実行組織だが解散することにしたい、発展に関してはこんごもつづくので、問題別に臨時専門委員を委嘱するので、一応解散したい』として、五十年度の事業経過報告がおこなわれました。

**学園都市**　その後進展はないが、釧路管内、根室管内、釧路市との連携で阿寒地区を候補地として四十九年に道議会に請願したが、国立公園に隣接していて環境上好ましくないとの情勢から、第二候補地として九大演習林を十勝管内として打ち出した、道知事は理解しているが文部省は消極的である

**高速道路**　分岐点は足寄地内と出ていたものが変更になった

**鉄道建設**　北十勝線は一億円の予算がついて着工となったが、音更町の問題が障害となっている

## 地場産業に眼を向けて

つづいて五十年度収支決算で町補助三十万円の残金二十三万円を町へ返還することにし、小林会長から経済の高度成長を反映してエイトをおいてきたが、大型プロジェクトにウ結果として情勢の変化によって、町としては五十年度を基準年度とした五十二年度以降の総合開発計画をつくりたい、低経済成長となって住民に眼を向け他場産業に眼を向けて町の振興施策を検討したい、期成会は一応解散して、替る考え方として問題別に臨時専門委員によって対応する

**バイパス**　上士幌からの国道三差路は急角度で危険なので、発電所あたりでゆるやかに交差するように部分改良となる

**企業誘致**　ダンボール工場の今同容器は経済情勢の変化でおくれているが方針に変りはなく、釧路帯広、北見間の中心にあたる立地条件から中止はしないとのことで、連携を深めていく

**広域行政**　法務局出張所は釧路管内で優位で五十二年度に新築が考えられている

## 適時、適材で

○…学園都市その他が見込みなくなったわけではなく鉄道新線にしてもこれから予算の個所づけの段階に入るので、関係町村とともに運動をつづけていくことに変りはないものの、こんごは期成会という固定した形でなく問題ごとにその問題に適した人材を臨時専門委員に委嘱して適時、適材で協力を求めようというものとして、四月三十日をもって本期成会の解散を提案して、これを異議なく決定して午後三時近くに閉会しました。

## 足寄農協組合長に斉藤祐一氏

足寄町農業協同組合では役員改選総会後初の役員会を四月三十日にひらき、組合長に斉藤祐一氏、組合長代行に三原幸雄氏、代表監事に星孝一氏をそれぞれ再選しました。

足寄製材協同組合
理事長　日景　健治　理事　畑中タカミ
理事　羽磨　欣一　監事　加藤　碩
理事　岡崎　薫　監事　麻生　博子
理事　玉川　節子　参事　工藤　昭衛

東北海道木材協会
足寄支部
支部長　日景健治　事務局長　工藤昭衛
副支部長　岡崎　薫
副支部長　米川　渉
ほか協会員一同

山火予防
緑の山を守ろう

足寄営林署
署長　長尾　弘
監理官　筒田芳宗

足寄町
町長　小林弘道
助役　富田秋雄
収入役　鷲岡憲雄

足寄町議会
議長　大滝弥助
副議長　大久保　繁